

(7) 3 学年 社会科 学習指導案

①本時の題材 働きやすい職場を築くために ～未来につなぐ一中働き方研究所～

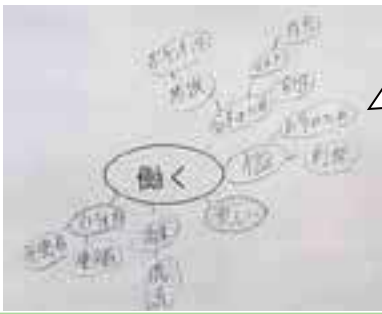
②本時の目標 豊かな労働の在り方を、雇用の現状や課題についての資料をもとに、労働者や使用者の立場で多面的・多角的に考えることによって、今後考えていかなければならない生きがいやワーク・ライフ・バランス、利潤の追求や社会への貢献などの価値に気付き、自分の将来と結び付けながら記述することができる。

③授業の観点 【主体的な学び】振り返って次へつなげる 【対話的な学び】互いの考えを比較する 【深い学び】自分の思いや考えと結び付ける

④本時の指導過程

段階	教師の働きかけ	予想される生徒の反応と活動	留意点・評価
つかむ 見通す	1 「働く」のイメージを広げよう。 2 本時の学習課題の提示。	1 「働く」を中心に、イメージマップを作成し、iPad で送信する。	【主 振り返って次へつなげる】 * 動機付け
	2 節テーマ「豊かな労働の在り方を私はこう考える！」について、労働者と使用者、両方の立場から考えよう。		
解決する	3 雇用の現状について分かることを資料から読み取ろう。	3 読み取ったことを付箋に書く。 ・雇用形態の変化 ・収入の格差 ・外国人労働者の増加 など	* 方向付け ・グループ編制は職場体験の職種に基づく。
	4 グループで付箋を出し合い、雇用の現状を整理しよう。	4 労働者と使用者どちらの立場に関わることか、付箋を分ける。	
伝え合う	5 二つの立場（労働者と使用者）に分かれてグループを組み、「豊かな労働の在り方」を考えるためのポイントを見付けよう。 ①班の中で二つの立場に分かれ、他の班の同じ立場の人と新しいグループを作る。 ②持ち寄った付箋を紹介し合い、K J法で分類する。		【対 互いの考えを比較する】 ・公務員系のグループはそのまま、地域活性化に関する資料を追加し考えさせる。
	6 労働者、使用者、公務員系のグループごとに、K J法でまとめたものを発表する。 ・賃金の格差解消 ・ワーク・ライフ・バランス ・労働者の確保 ・社会への貢献 ・生きがい ・地域活性化 など		
深め・広げる	7 「豊かな労働の在り方」を考えるために重要なポイントを選ぼう。 ①K J法によって出てきたポイントの中から選ぶ。 ②労働者、使用者どちらからも選び、ワークシートに記入する。		* 未来の働き方を前向きに思い描かせる。 【深 自分の思いや考えと結び付ける】
	8 今広がっている新しい働き方のスタイルを見てみよう。 ・コワーキングスペースの事例	8 気付いたことを発表する。 ・人と人のつながりで新たな仕事を生み出している。	
まとめ・振り返り	9 労使どちらの立場の考えも取り入れ、考えをまとめよう。	9 選んだポイントをもとに、テーマについて考えをまとめる。	* 意味付け
	(例)私にとっての豊かな労働の在り方とは、ライフ・ワーク・バランスを大事にしながら一生懸命働くことです。頑張っって夢を叶えながら、家族や趣味も大切にしたいです。これは職場側の工夫も必要なので、仕事の内容によっては家でも働けるなど社員の声を生かしてくれる職場がよいです。私自身も意見を出していき、楽しく充実した働き方ができると思います。		
	10 全体の前で発表しよう。	10 テーマへの考えを発表する。	* 価値付け
	11 2 節の学習を振り返ろう。	11 振り返りを記入する。	

【1 イメージマップの作成】



社会科に限らず、これまでの様々な学びを一気に振り返ることができた。プラスなイメージが多かったが、マイナスのイメージをもっていることにも気付かせ、課題解決への意識付けができた。

【3 資料の読み取り】



個人で付箋に書き出した情報を、班で出し合いながら労働者と使用者のどちらに深く関わることか分けさせた。配付資料が多く読み取りの時間を十分確保できなかったことは反省点だが、この班活動の中で付箋を付け足す様子が見られた。立場による現状の捉え方の違いに気付かせることができた。

【4 労使の視点で付箋の仕分け】



【5 立場に分かれてKJ法】



経済の単元を通して、職場体験活動における職種に基づいていた班編制で授業を行った。製造業やサービス業など生徒が希望している職種と結びつけながら学習を進めることで、自分事として捉えさせることができた。「働く」ということについて、総合や道徳などで学んだことが土台となり、話し合いはスムーズに進んだ。

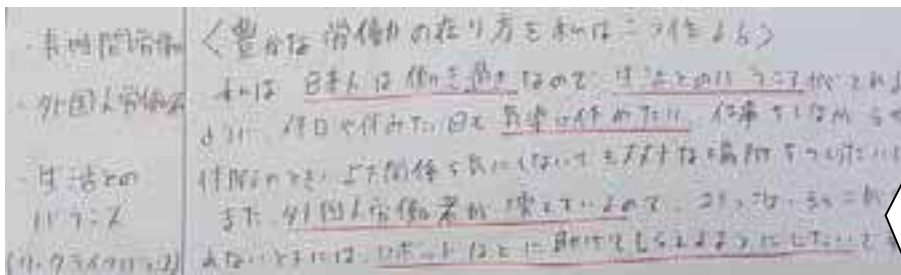
各グループがKJ法でまとめた内容について発表した。労働者、使用者及び公務員系それぞれの立場になりきって、雇用の現状について話すことができ、多様な視点から労働の在り方について考える終末場面へとつながった。

【6 グループ（立場）ごとの発表】



様々な学習での知識を引き出し、結びつけてまとめることができた。単元初めに生徒が挙げた「豊かさ」のキーワードとの変容で、学習の成果を確かめたい。ただ、社会科として豊かさをどう扱うかが課題として残った。

【まとめと振り返り】



↑この生徒が選んだキーワード

4 研究のまとめ

(1) 児童・生徒の変容

① 活用型の学習 (全国学力学習状況調査より) B問題正答率の比較



〈考察〉「活用に関する問題」に対しては近年、県や全国の正答率を上回っている。

さらに記述問題での正答率も県や全国を上回っており、課題解決のための自分の考えを導き出しながら、設問に対して記述できていると言える。

② 「主体的な学び」に関する質問項目 (全国学力学習状況調査より)

ア 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか。

	本校	全国比	青森県	全国
平成29年度 高校1年	78.3	+19.1	63.1	59.2
平成30年度 3学年	77.3	+17.8	64.3	59.5

イ 1・2年生の時に受けた授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。

	本校	全国比	青森県	全国
平成28年度 高校2年	82.6	+19.5	68.0	63.1
平成29年度 高校1年	95.7	+29.6	72.8	66.1

〈考察〉地域課題解決探究型の学習展開により、地域社会の問題などへの関心が十分あると言える。29年度から「振り返り」場面や振り返りシートの重点化により、振り返る活動の実施は、全国や県の数値を大幅に上回っている。

③ 「対話的な学び」に関する質問項目 (全国学力学習状況調査より)

ア 生徒の間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。

	本校	全国比	青森県	全国
平成29年度 高校1年	86.9	+22.1	68.3	64.8
平成30年度 3学年	95.5	+19.2	79.7	76.3

イ 1・2年生のときに受けた授業で自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか。

	本校	全国比	青森県	全国
平成29年度 高校1年	65.2	+7.3	58.6	57.9
平成30年度 3学年	77.3	+23.5	54.4	53.8

〈考察〉話し合う活動を日常的に行うことによって、じっくり話を聞きながら考えを生かしたり、まとめたり、深めたりすることを効果的に行うことができている

ことがわかる。

④「深い学び」に関する質問項目 (全国学力学習状況調査より)

ア 地域や社会をよくするため何をすべきかを考えることがありますか。

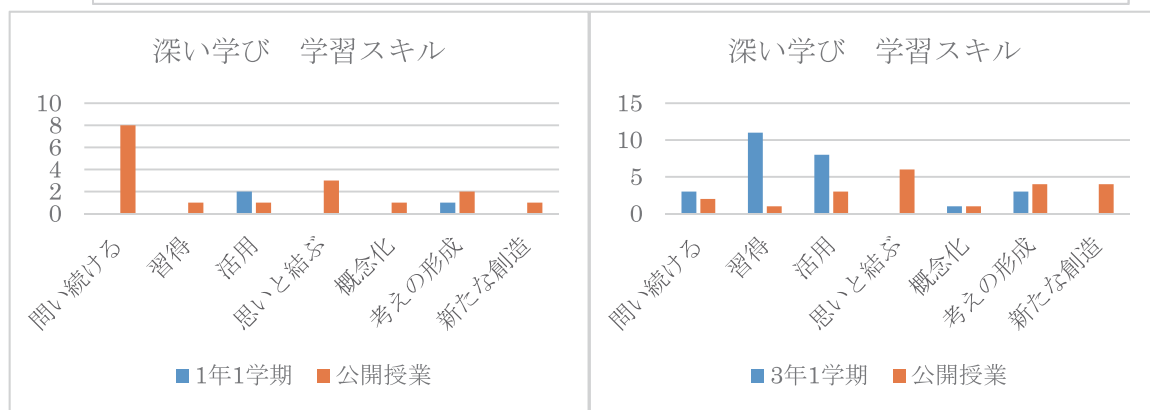
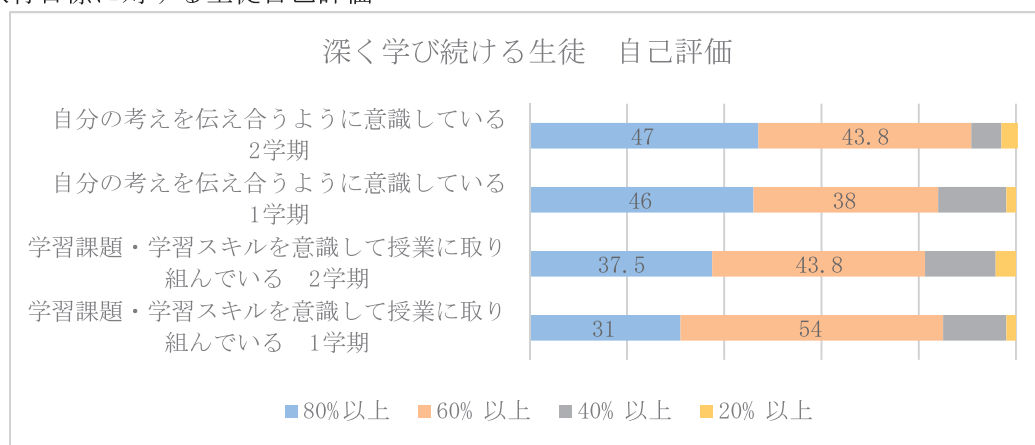
	本校	全国比	青森県	全国
平成29年度 高校1年	56.5	+23.1	37.4	33.4
平成30年度 3学年	63.6	+24.9	45.0	38.7

イ 次の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。

	本校	全国比	青森県	全国
平成30年度3学年数学	81.9	+43.7	44.6	38.7
平成30年度3学年理科	77.3	+31.9	53.0	45.4

〈考察〉活用型授業への取組、探究型の「総合的な学習の時間」の展開から、学習内容の暗記に止まらず、原理・原則や知識・技能を生活や社会に生かす視点に立ち、学ぼうとしていることがわかる。

⑤教育目標に対する生徒自己評価



【生徒の振り返りから】

- ・国語の学習では協働解決する力が身に付いた。話し合いでは自分の意見と照らし合わせ、共通点や違いを見つけて進めた。資料から読み取ることができるようになったのは、「総合」で学習した後なので課題や取組をよく読み取れるようになった。
- ・「総合」の時間等にいろいろな職種の方や先生の資料を見聞きして、自分が体験していないことをイメージする力や興味を持ったことをさらに調べる力が身に付いた。その知識を教科の授業で活用するので覚えやすくなった。

(2) 研究の成果

- ① 社会とつなぎ、いろいろな視点で考える教科等横断型カリキュラム

- ア 「総合的な学習の時間」を核として教科の学習内容を相互にリンクさせ、学校全体でいろいろな話題や資料を提示したり、単元を再構成したりするカリキュラムづくりが進んだ。単元配列表作りに着手。
- イ 教師と地域の「ひと・もの・こと」がつながり、地域社会を学びの場とするネットワーク化が図られた。
- ウ 「総合的な学習の時間」におけるキャリア発達課題への取組や「ドリームマップ講座」は、子どものよさを引き出し、将来の生き方を考える上で効果的な内容となった。
- ② 活用・探究型学習の定着
- ア 「総合的な学習の時間」で身に付けた学習スキルや探究型学習の考え方や方法は、各教科や道徳、特別活動にも波及した。学び方を学んだ上で習得した知識や技能をどのように日常生活で活用・発揮させるかということを生徒たちは体得している。
- イ 課題を設定し、情報を収集したらそれを整理・分析してまとめたり表現したりするという流れは、いろいろな教科で取り入れている。
- ③ 「わくわくする課題」から「パフォーマンス課題」への展開
- ア 「わくわくする課題」を日常化する中で、興味・関心をもたせながら見通しをもって学習活動を行える単元づくりが進んだ。
- イ 単元を貫く課題を継続したところ、世の中とつなげる視点に立った「パフォーマンス課題」に展開できるようになってきた。
- ④ 「学習スキル」と思考ツールの定着
- ア 生徒に身に付けさせたい資質・能力を「学習スキル」として提示しながら授業を行い、「つなげタイム」で振り返りを行わせた。生徒は自分に身に付いた力について客観的にとらえ、次につなげていこうという意欲付けになっている。
- イ 様々な思考ツールをいろいろな場面で使いこなせるようになってきた。特別活動等では主体的に図や表を書き、考えを整理したり、視覚化したりして生かす姿がある。
- ⑥ ICT機器の効果的な活用
- ア 支援員の協力を得て、iPadやBigPadの利用により、調査や情報収集・共有・発表をスピーディに行えた。簡便さ・利便性、視覚的にも大変有効である。
- イ 生徒自らiPadを操作して「ロイロノートスクール」を活用したプレゼンテーションを行っている。外部に向けて学校や地域をPRする際に効果的なツールである。

(3) 今後の課題

- ①パフォーマンス課題について
- ・パフォーマンス課題を作る研修の積み重ねとパフォーマンス評価の仕方
- ②「学習スキル」について
- ・「学習スキル」のそれぞれの意味を理解し、どのような場面でも使うのか研修していく。同時に生徒に学習スキル一つ一つの意味や力を解説する必要がある。
 - ・「振り返り」のさせ方の研修と「つなげタイム」のもち方
- ③カリキュラム・マネジメント
- ・教科学習と「総合的な学習の時間」の関連付け・必然性
 - ・「深い学び」のある単元づくりと学習活動の工夫
 - ・教育課題及び「総合的な学習の時間」を核としたカリキュラム・マネジメントの一層の推進
- ④主体的・対話的で深い学びを実現するための環境づくり
- ・表現したり考えをアウトプットさせるための雰囲気や言語環境づくり
 - ・生徒が自分のよさを知り、地域社会や未来とつなげて考えていくための教師の関わり